

# 英米文学・英語学専修

この専修では、英米文学と英語学に関する専門的知識を得るとともに、英語の総合的運用能力を習得することを目指しています。

そのため、アカデミックな講義・演習に加え、外国人教師による演習や海外留学や資格試験合格を視野に入れた実践的な授業を行います。

英米文学を専攻する学生は、英米を中心とする英語文学世界の全体的輪郭、ジャンルの特性、その成立・発展の状況等を文化的視野の中で把握します。それをふまえ、小説・詩・劇・批評などの具体的作品を取り上げ、テキストを正確・綿密に読む訓練を通して、文学研究の方法論を学び、文学センスを磨きます。学生は、各自の関心に基づき自由に研究テーマを選ぶことができ、それを卒業論文にまとめます。

英語学を学ぶに当たっては、理論と運用の両面にわたって英語の実際の姿を観察し、また英語学の研究史上重要な文献を読み、広く用例を収集・分析して、現代英語の構造やその特徴を把握することが基本となります。最近の英語学では、英語の音韻、文法、意味だけではなく、言語習得、発話行為や談話構造、言語と認識、日英語の比較研究も盛んです。講義・演習等は、これらの多様な研究に応じられるように配慮されています。

<http://osaka-english-lit.com> (英米文学)

<https://sites.google.com/site/handaieigogaku/home> (英語学)

## 教員

服部典之 教授	はっとり・のりゆき
岡田禎之 教授	おかだ・さだゆき
片淵悦久 教授	かたふち・のぶひさ
神山孝夫 教授	かみやま・たかお
石割隆喜 教授	いしわり・たかよし
山田雄三 教授	やまだ・ゆうぞう
田中英理 准教授	たなか・えり
森本道孝 准教授	もりもと・みちたか
Paul AS Harvey 外国人講師	ポール・ハーヴィ

## 何を学んでいるの？

### 英米文学入門

数ある英米文学の傑作を取り上げ、英語原文を抜粋で講読、また映画版をダイジェストで視聴しながら、各作品世界の魅力を英米文学に親しんだことのない人にも分かりやすく紹介します。

### 英語学の基礎

英語の文法事象について、高校までの考え方も比較しながら、なぜそのような文法規則が必要なのか、より妥当な説明はないのか、といった検討を行います。言語学の考え方を少しでも知ってもらえれば幸いです。

## どんな授業があるの？

### 【講義題目】

「エスニック」の観点から見たアメリカ演劇  
物語更新論入門

英語音声学入門、前置詞の意味論

### 【演習題目】

Kazuo Ishiguroの*The Uncounselled*を読む

『ロミオとジュリエット』を読む

英語に見られる構文の統語論

英語の記述文法：The Cambridge Grammarを読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### The Communal Function in Hamlet's Speech Act

Robert Weimannの「ローカス（後景）」と「ブラテア（前景）」のモデルを用いながら、ハムレットの各独白における演者と観客との距離を分析しています。ハムレットは虚構内の主役のみならず虚構／現実の狭間で道化を演じることで、観客との共感を生み出すという独創的な見解を示しました。(選：山田雄三 教授)

### Licensing Conditions of the Present

#### Subjunctive in English

「提案、要求、主張」などの主動詞に後続する文内では、動詞の原形を用いるという一般化がなされますが、本当にこのグループに属するすべての動詞で様にこの制限が認められるのかどうかを、大規模なコーパスデータによって調査した。英語教育的観点からも重要な問題提起でした。(選：岡田禎之 教授)

### 【卒業論文題目】

The Pathetic Effect on the Audience of the Unkingly King  
in *Richard II*

The Theme of Education in Bernard Malamud's  
*The Assistant*

A Study of Bosola's Hidden Nature in *The Duchess of Malfi*  
Pragmatic Effects of Declarative Questions

Modal Auxiliary *Will* and Adverbial Clauses of Time and  
Condition

On the Peculiarities of Interpretive Progressives

## 英米文学 卒業論文指導合宿

合宿  
レポート

英米文学・英語学専修では英語で30枚の卒業論文を作成することが必要となります。ハードであるものやりがいと達成感を味わえるこの体験の達成に至る手助けの方法の一つとして、英米文学分野では、11月末に1泊2日での「卒業論文指導合宿」という新たな試みを、2018年度より行っています。英米文学で卒業論文を執筆する4年生を主たる対象として、琵琶湖を臨み滋賀県の「白浜荘」にて、2年連続で開催することができています。

英米文学での卒業論文執筆にかかわる指導の流れとしては、4年生の7月末に対象作家や・作品などについての構想を報告する場がまず設けられます。そして10月末に中間発表という

形で、より具体的な論文の構想・展開について報告をします。そのうえで、11月末の合宿では、少なくとも卒業論文の第1章となる予定の原案を英語で準備してきます。それを基にした発表を聞き、教員および先輩である大学院生が、様々なコメントやアドバイスをする形で、合宿は過ぎていきます。食事や懇親会の場などでの、学生同士、教員や大学院生との交流も大きな意味を持っています。

2018年度は9名、2019年度は4名という英米文学で卒業論文執筆の4年生は全員参加をしてくれました。また、大学院生の参加に加え、2019年度には卒業生有志も参加をしてくれたことで、就職活動や就職後の生活にかか

わるアドバイスも共有することができているようです。また、合宿後の4年生たちは、学生研究室とともに励み合いながら論文執筆を進めるなどお互いに切磋琢磨する機会が増え、さらには演習科目などで授業の場での発表にも、成長をうかがえる効果を見て取ることができています。このように、学びという面での実り多いイベントですので、専修決定後の2・3年生にも参加を呼び掛けているところです。参加をお待ちしています。

文=森本道孝



## “解く”英語から“考えて学ぶ”英語へ

### 英語学専修はどんなところ？

一言で言うと、英語の奥深い境地に誘われた者の集まり!? 専門の授業の種類が豊富で、取りたい授業を自由に受講できるのがポイント。4名の先生方と、各学年8~10名の学生が在籍しており、他専修と比べて人数が多いので友達ができやすい!

### 何故この専修を選んだのか？

とにかく英語が好きだから! 高校までは英語について“解く”ことが多かったけれど、英語学専修では、英語について自分で“考えて学ぶ”ことができる。また、英語の教員を目指す上で必要な専門知識を深められるのも魅力的。(英語学の専門授業は英語の教員免許取得に必要な授業でもあるので、一石二鳥!)

### 英語学専修で何が勉強・研究できる? “考えて学ぶ”とは?

具体的には音声学・統語論(文構成の仕組みの分析)・形式意味論(集合や論理の考え方をを用いた自然言語の分析)・語用論(言語表現と使用

者・文脈の関係の分析)などの観点から、英語を多角的に学ぶことができる。英語の文法や表現に関して何故そうなるのか? と疑問を持ったり、考えたりするのが好きな人は向いているかも! 研究テーマは自由なので、英語教育や、英語と他言語の文法表現の比較、古い時代の英語について研究している人などさまざま。

### 英語学専修の雰囲気や良さは?

先生との距離が近く、先輩後輩関係なく学年を超えた繋がりがあるところ。具体的には授業で分からないところがあればすぐに聞きに行ったり、進路相談したり……。また、留学や海外に興味を持っている人も多く、実際に留学経験のある先輩からアドバイスをもらえる。

### 就職状況は?

文学部は就職に弱いという偏見を持っている人もいるが、実際は全くそんなことはない。英語の専門知識を活かして教員になる人もいれば、民間企業に就職したり公務員になったりする

人もいる。また、大学院に進み更に研究を続ける人も少なくない。

### 高校生へのメッセージ

高校の英語では物足りない、そのの貴方。実は英語はもっと奥深いんです! ぜひ、阪大の英語学専修で一緒に学びましょう!

[インタビュー協力]

森藤早紀(右下)、松本由衣(左下)  
平野那奈(左上)、森川美沙子(右上)

榎原尚紀

文責: 森藤、松本、平野

